



菅野大志の

「いどばた会議」vol.33

まちづくりに関する活動や近況などを
西川町長・菅野大志が綴ります。

本年度の主な新しい事業への思いなどをご説明いたします。

1. 月山カヌーセンター、ビジネス+レジャー対応施設はなぜ建設したのか？

この2つの施設は、就任当初と2年目の年に検討を始めました。この契機は、1人暮らしのお父さん・お母さん、88歳や99歳の賀詞贈呈者との対話です。

「どんなことが楽しみですか？」とご質問すると、以下のような回答を多くお聞きしました。

●子・孫が帰ってきたとき（お子様、お孫さんの話を詳しく話してくれます）

●隣家の人や誰かとお話し、お茶のみすること

このお話をお聞きして、「お茶のみサロン」「ミニデイ」事業の支援を強化する必要があると考え、今では、どの地区でも開催していただけるようになりました。

一方で「お孫さんが帰ってきて、実家や町内施設に泊まらず日帰りする」との話を伺いました。しかし、「サウナができてから、西川にくる頻度が増えた」というお話もいただきます。このように、町民の皆さまからヒントを得て、成人式や冠婚葬祭などで里帰りされた方が気軽に泊まれる洋室の宿泊施設（ビジネス+レジャー対応施設）を建設しました。

「フェリシア月山カヌーセンター」は、カヌーを頑張った方の雇用の場を創り、ダム建設による移転を余儀なくされた方のためにも、湖を治水対策に加えて西川活性化のためにもっと活用したいという思いがあります。当初は、この施設の建設により、カヌー競技の誘致や、日常的にカヌーが体験できる施設を想定していました。しかしながら、老若男女がごちゃまぜで楽しめる場所にしたいと考え、初心者や高齢者でも利用できる4人乗りの足漕ぎ型カヤック（ホビージャパン社）を導入します。この乗り物が導入されるのは、東北初です。いつか試乗会をしてミニデイでも活用いただいたり、子どもたちにも楽しんでもらいたいと願っています。

また、月山・夏スキーに加えて、西川らしい若い観光客を誘致するため、この施設を建設することにしました。両施設がオープンしたら、ぜひ町民の皆さまにお越しいただき、お子さま、お孫さん、ご親戚にお知らせください！



▲プレジャー拠点施設関係者の皆さま



▲カヌーセンター



▲4人乗りの足漕ぎ型カヤック

	プレジャー拠点施設	月山カヌーセンター
課 題	▲町内に素泊まり洋室宿泊少ない ➡西川町帰省時に日帰りとなる ➡視察500名の2割のみ町内宿泊 ▲企業研修の受入施設少ない	▲カヌー経験者の雇用の場少ない ▲トイレ・避難施設がなく、大きな大会が誘致できない ▲レジャーカヌー日常的にできない
対 応	○4室の洋室、セミナー室完備 ○視察等の町外宿泊者を町内に宿泊 ○夜営業の飲食店も併設	○カヌー経験者の雇用の場に ○世界カヌー大会と合宿の誘致 ○新しいレジャーで宿泊・延泊 ○多世代交流できる乗り物

【今後のスケジュール】

- 5月30日（金） 水沢のプレジャー施設（宿泊付き食事処）オープン
- 6月21日（土） ホビーベース月山のオープニングイベント
- 6月28日（土） フェリシア月山カヌーセンター竣工式

今月の大ニュース！

『新規採用職員9名が町の新たな仲間！
町民の皆さま、お世話になります』



▲町公式LINE



▲オープンチャット

ご登録お願いします！

2. 令和7年度には、難しい課題にもチャレンジしてまいります

	課 題	狙 い
教 育 政 策	●持続的な部活動の地域移行の体制 ●保育園と小学校の短期留学の受入れ ●放課後子ども教室の在り方の検討	➡充実した部活を移住の契機に ➡二拠点生活で、住民税の獲得 ➡有料の学童保育か、現状維持か
雇 用 対 策	●総合開発・カヌーセンターの雇用拡大 ●交通・建設事業者の契約時の人件費適正化 ●起業セミナーが少ない、経営相談にくい	➡獲得予算をさらに委託へ ➡町に必要な不可欠な職業の支援 ➡町のアドバイザーの民間利用
安 全 安 心	●町立病院の維持と存続に向けた現実的検討	➡新病院連携等、とにかく存続！
高 齢 者 対 策	●海味温泉の存続と施設の耐震化 ●誰一人取り残さない地域へ	➡温泉と介護予防促進の施設へ ➡ミニデイ・老人クラブ活動支援
移 住 対 策	●独り親世帯の支援強化	➡みんなでサポートする地域へ
農 業 対 策	●農業の後継ぎがない ●大井沢のそば畑を中心とした景観保全	➡後継ぎ候補の募集とその支援 ➡町・区・改良区も含めた協議
商 工 業 対 策	●建設業者、総合建設業者が抱える課題解決 ●リフォーム補助が難解で補助が低い ●宿泊事業者による地産地消の促進	➡対話での現状把握による解決策 ➡住宅リフォーム促進の補助強化 ➡地域で資金循環する仕組づくり
文 化 ス ポ ー ツ	●間沢スキー場の魅力化と赤字経営 ●文化財登録と文化振興予算が少ない	➡スキー場による冬の誘客 ➡文化財登録による財源確保
地 域 別 対 策	●海味：大堰の越水対策 ●沼山：北ノ沢の災害リスクの検討 ●入間：公民館の改修工事 ●志津：トイレを備えた志津会館の整備 ●共通：危険空き家・放置空き家の処分	➡区との協議による浸水回避 ➡沼山・原区、県、町で協議 ➡旧体育館の代替機能を整備 ➡イベント開催、観光客獲得等 ➡期間限定の抜本的対策

3. 元職員の方の人権救済の訴えに関するお詫び

この度、元職員への行為に関しては、私自身の未熟さであり、深く反省しております。また、その元職員に対してまずお詫び申し上げます。また、職員の皆さま、町民の皆さま、西川の連携企業や西川にゆかりのある皆さまに対しては、集中しにくい環境をつくったり、信頼を損ねてしまったことにつきましてお詫び申し上げます。

今後は、各種調査に協力しつつ、調査による結果を真摯に受け止め、適切な改善対応策を早急に検討してまいります。

西川町長 菅野 大志